

ワンポイント解説

生活科実践の基本用語

馬居 政幸
静岡大学助教授

1. 辞書的ではなく、文脈の中の意味を

私は、生活科の意義は、社会科と理科に代わる新教科の誕生ではなく、小学校教育の新たな創造にあると考える。実際に、生活科への取り組みが深まるにつれ、全国各地で従来と全く異なる教師や子どもの姿が見出される。生活科の実践を表現するために、新たな言葉が必要とする段階に近づきつつあるようだ。事象のユニークさは、それを表現する言葉のユニークさとセットだからである。だが現時点では、まだ独自の用語創造には至っておらず、既存の言葉に新たな意味を付与すること、いいかえれば言葉が使われるコンテキスト（文脈）を変えることで新たな事象を表現する段階にあるようだ。

生活科は未だ発展途上。実践もそれに表現する用語も、辞書的な短文で明確に定義できるほど確定していないと考える。そのために生活科実践の基礎用語の解説は、その用語が用いられる文脈を提示することで表現したい。

なお、そのため、解説する用語を「生活」「活動構成」「環境構成」の三種に絞り、その記述過程で基礎用語をゴシック文字で提示したい。

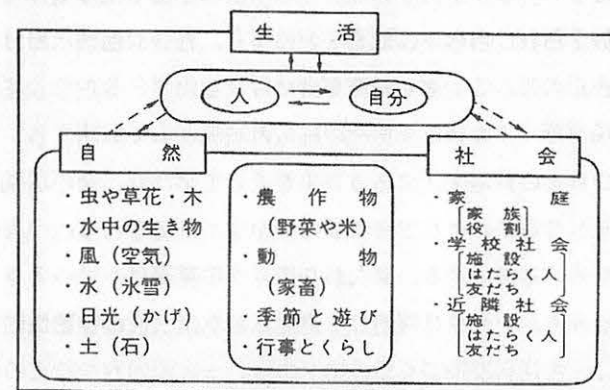
2. 社会も自然も生活の中に

生活科では、社会や自然を一体的に、またそれへの自分とのかかわりを重視した学習活動が行われる。この一体的にや自分とのかかわりの意味を解く鍵が生活科固有の生活（観）のとらえ方にある。図-1を見ていただきたい。ポイントは次の3点である。

①自然と社会を連続した枠で考えること。

②自分と自然や社会との関係を人と自分との関係を通して得られることとして表現していること。

③それらが生活という枠の中で行われていること。



静岡大学教育学部附属浜松小学校研究紀要 1988
「生きる・考える・あらわす」力を育てる」より

図-1

もともと社会と自然という概念は日本にはなく、明治期に“Science”と共に輸入された“Society”と“Nature”という考え方の訳として、社会は造語、自然は意味を新たに付加された言葉である。その意味で世界を社会と自然と分けることは“Science”を生んだヨーロッパ近代固有の認識方法ともいえる。

だが、現代は脱工業化やポストモダンが論議される時代である。むしろ、環境問題を代表に、自然現象と社会現象の区分が却って問題解決への道を閉ざす場合が多々ある。何よりも子どもにとって町の並木は自然を学ぶ数少ない機会だが、それを育てる地域の人達と自分とのかかわりを学ぶ契機でもある。同様のことは“春さがし”や“秋さがし”に訪れる公園にもいえる。

公園や道端に咲いた草花を愛でる心の大切さは、それを気付かせ確認してくれる人と人（あいだ）のコミュニケーションにより生じる。自然が失われたのではなく自然の価値を気付かせてくれる人と人の関係が失われたと考えたい。道端に咲くタンポポの前に共にかがんで見つめつつ、先生が花へ

の思いを語るからこそ子どもの心に響くのではない。教科書や図鑑の絵では、花の構造を知ることができても花への思いを感じとることは困難ではないか。

他方、子どもの生活はここからが社会ここからが自然と分かれて存在しているわけではない。まず生活がある。その生活の過程で生じる様々な事象の中で、人に教えられ、自ら学び取ることにより、社会や自然と自分とのかかわりに気づき、人として生きる知恵を身に付けるのである。そしてこのような学びの過程がそのまま新たな生活の創造の過程として展開する。すなわち全てが子供の日々の日常生活にある事象を通して学ばれ、その結果が再び生活の中に還元していく。そしてまた新たな学びが創造される。一人の人間として生きるための基礎・基本、すなわち自立への基礎は、このような生活過程の中で築かれる。それを意図的に準備するのが生活科の学習活動である。

したがって、生活科授業づくりの第一歩は、一定の内容を特定の教材と指導法で教えるという教育観、あるいは教師と子どもが教える側と教えられる側に固定された授業観から教師一人一人が自由になること。そのためには教材構成よりも活動構成が、学習指導よりも教師の援助が重要となる。

3. “活動構成”は学校の外の“子どもの生活”を知ることから

構 想	①子どもの生活の経験⇒歩いてつくる生活科マップや生活科暦 ②活動の自由な発想⇒一年間の活動の基本構想(コンセプト)づくり ③活動を相互に関連づけた全体構成(ストーリー化)⇒年間活動計画
構 成	④活動構成⇒活動の基本設計、全体の流れの想定、人や物の手配、 家族と連携 ⇒教師間の協力、合科指導への配慮
実 践	⑤活動(指導)案⇒多様な活動場面のイメージトレーニング、 記号や絵による活動展開の図示 ⑥活動実践⇒臨機応変の対応、子どもの学びの発見と意味づけ
再 構 成	⑦活動の修正・再構成⇒授業の見直し、全体構成の総括 ⇒教師の自己評価 ⇒家庭との活動結果についての連携

図-2

図-2は生活科の活動構成過程の概要を示したものである。まず、教師が子どもの生活世界を自ら歩いて子どもと同じ目の高さで経験すること。そこで見出した人や物の出来事を図や文字で分かりやすく記録したものが生活科マップや生活科暦や生活科人材バンク。次いでその経験やマップをヒントに四季おりおりの活動を自由に発想し基本構想をたてる。さらにそれらを相互の関連性(子どものニーズ、ストーリー性、他教科との関連など)や実現可能性(子どもの個性・発達度、他の教職員や学校外の人達の協力度、時間数など)を考慮しつつ年間活動計画として整理する。また、個々の活動の構成(単元計画)では、全体の流れを想定しながら活動に係わる人や必要な物を学校の内外にわたり手配し、家庭との連携をとりつつ活動の基本設計を描く。その際、活動を無理なく展開できる鍵は、第一に教師一人ひとりの持ち味を生かした学年間の協力、第二に他教科との合科的指導であることを強調しておきたい。

個々の授業においては、活動(指導)案を作成し授業実践に望むことになるが、その際に最も重要なことは、どれだけ子ども達との活動場面を具体的に想像(イメージトレーニング)できるか。さらにそれを絵や記号により図として表現すること。教師や子どもの問答を文字による表現のみでは、生活科の活動案を描くことはできない。ただし、ひとたび授業が始まれば活動案にとらわれずフレキシブルに子どもの内発的な発想(生活への関心・意欲・態度)や動き(活動や体験についての思考・表現)を援助することが重要。さらに、子ども達の間で生じている学びの過程(身近な環境や自分についての気づき)をいかに見出し、気付かせ、意味づける(評価する)かが教師の役割である。授業の終了後においては、その都度活動を見直すとともに、必要に応じて適宜活動の全体構成を総括し、あくまで子どもの意欲・意識の流れを核として活動の修正や再構成を図ることが重要である。この段階でのポイントの第一は教師自身の自己評価や相互評価の多面的な厳しさである。また、子ども一人ひとりの活動過程での学びの成果や課題についての家庭と連携である。

4. 生活科を支える環境とは

生活科実践独自の基礎用語が環境構成であろう。生活科ではこれまで動かないと思っていた条件が全て変化するため、授業の環境をつくること自体が課題となるからである。すなわち環境の構成とは、教師と子ども達が積極的かつ能動的に活動に取り組むことができるように、さまざまな条件を整えることである。それは次の二つにわけられる。

(1)生活科教育全体の学習と指導が可能なための環境の構成

(2)生活科教育の個々の活動における学習と指導のための環境の構成

まず、(1)は生活科教育を実施するために必要な人や物や出来事や仕組みを児童が生活する場合全体にわたり整備することである。そのためには、生活科教育を実施する前提として、①校舎の中、②校舎の外、③学校の外という三つの場におけるひと、もの、ことこの調査・整理が必要である。さらに生活科を支える次の二つの仕組みを整備する必要がある。

①学校内の仕組みと活動環境の再構成

- ・ 教師間の連携、教育課程、学校経営などの再構成
- ・ 動物の飼育、植物の栽培、運動場や中庭の利用のための再構成
- ②家庭や地域との連携

・ 地域の人々を子どもたちの先生に／家庭をパートナーに

また、(2)は、個々の活動に依りて、子どもが自ずと活動に取り組める環境を用意すること。(1)での準備を基礎に、どれだけ子ども一人一人の実態に即した指導と準備ができるかが課題。①子ども自身が学習活動の一貫として構成する環境、②教師が子どもとの学習活動を支えるために構成する環境、③授業・学習過程における活動の場の同時進行的な環境構成、が考えられる。

なお最後に、生活科に関する「学習指導要領」「指導書」「指導資料」から三つの場それぞれのひと、もの、ことに当たる言葉を拾い出し分類した「生活科における環境キーワード」(湖西市立白須賀小・松木孝夫先生との共同作成)を付記する。環境構成のヒントとして参考にしていただきたい。

図-3 生活科における環境キーワード

	ひ	と	も	の	こ	と		
校舎の中	<ul style="list-style-type: none"> ◆先生など学校生活を支えている人々 ◆友達 ◆先生や主事さんなど学校での生活を支えてくれる人々 ◆先生や友達 ◆担任の先生 ◆いろいろな先生や人々 ◆学校の友達(の名前) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆先生など学校生活を支えている人々 ◆友達 ◆先生や主事さんなど学校での生活を支えてくれる人々 ◆先生や友達 ◆担任の先生 ◆いろいろな先生や人々 ◆学校の友達 ◆一緒に通学する友達(の名前) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の施設 ◆土、砂、石、風など ◆雪や氷など ◆身近にある草花、木の葉、木の実などの自然物 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆学校の施設や設備 ◆土、砂、石、風など ◆雪や氷など ◆身近にある草花、木の葉、木の実などの自然物 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆制作や発表会等で十分活動できるスペース ◆飼育や栽培に関する施設、設備 ◆児童が成長している場所 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人学(式) ◆学校や学年の行事 ◆自分たちで季節にかかわってつくり出す行事→野菜などの収穫祭、花祭り、夏祭り、雪祭りなど ◆児童がかかわりをもてる人々の働き(仕事) ◆学校の行事(家庭訪問、運動会、〇〇大会等) ◆児童の生活、遊び(自然、行事とのかかわりのある活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆先生など学校生活を支えている人々 ◆友達 ◆先生や主事さんなど学校での生活を支えてくれる人々 ◆先生や友達 ◆担任の先生 ◆いろいろな先生や人々 ◆学校の友達 ◆一緒に通学する友達(の名前) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆先生など学校生活を支えている人々 ◆友達 ◆先生や主事さんなど学校での生活を支えてくれる人々 ◆先生や友達 ◆担任の先生 ◆いろいろな先生や人々 ◆学校の友達 ◆一緒に通学する友達(の名前) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の施設 ◆土、砂、石、風など ◆雪や氷など ◆身近にある草花、木の葉、木の実などの自然物 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆学校の施設や設備 ◆土、砂、石、風など ◆雪や氷など ◆身近にある草花、木の葉、木の実などの自然物 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆制作や発表会等で十分活動できるスペース ◆飼育や栽培に関する施設、設備 ◆児童が成長している場所 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ◆季節の変化 ◆四季の変化 ◆動植物の変化や成長 ◆季節や天候など(の変化) ◆生き物の活動 ◆育てている生き物の成長 ◆季節の移り変わりに伴う様々な変化 ◆周囲にある樹木等の自然の様子の変化 ◆学校や学年行事 ◆自分たちで季節にかかわってつくり出す行事 ◆児童がかかわりをもてる人々の働き(仕事) ◆学校の行事(家庭訪問、運動会、〇〇大会等) ◆児童の生活、遊び(自然、行事とのかかわりのある活動)
校舎の外	<ul style="list-style-type: none"> ◆家族 ◆近所の人や店の人など多くの人々 ◆公共施設で働く人々 ◆(自分の成長を支える)多くの人々 ◆一緒に通学する友達 ◆父母や祖父母、兄弟姉妹など家庭生活を共にする人々 ◆(交通)安全を守ってくれる人 ◆公共施設を整備している人々 ◆近隣の人、友達の家族、子ども会の人、よく利用する商店の人、駅などの近くの公共機関で働く人々 ◆公共物を利用している人々 ◆乗客 ◆児童や自然現象を基にした遊びやおもしろい(など)などについて指導してくれる身近に住む大人の人 ◆父母や祖父母、親せきの人々、幼稚園の先生、友達など多くの自分を支えてくれた人々 	<ul style="list-style-type: none"> ◆通学路 ◆近所の公園などの公共施設 ◆土、砂、石、風など ◆雪や氷など ◆身近にある草花、木の葉、木の実などの自然物 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆遊び場 ◆遊具 ◆遊具以外のいろいろな施設や設備 ◆広場や河川敷 ◆砂場や安全な河原など ◆危険な箇所 ◆公民館や児童館など ◆(交通)安全を守ってくれる施設 ◆よく利用する商店 ◆公共的な交通機関 ◆安全のための公共交通機関の施設や設備 ◆電車やバスや停留所など ◆駅や港 ◆身近にある草花、木の葉、木の実など ◆土、砂、石、風など ◆川と海、雪や氷など ◆動植物 ◆野草の花 ◆昆虫 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース ◆制作や発表会等で十分活動できるスペース ◆飼育や栽培に関する施設、設備 ◆児童が成長している場所 ◆身の回りや作ったもの等を展示し、雰囲気を盛り上げたり、振り返ったりできるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭の仕事 ◆買い物 ◆(お)使い ◆手紙 ◆電話 ◆季節の変化 ◆四季の変化 ◆季節や天候など(の変化) ◆地域の行事 ◆お祭りの行事 ◆動物の変化や成長 ◆家族の世話をする仕事 ◆家事を支えるための仕事 ◆家庭で自分かしている仕事 ◆使って頼まれた買い物 ◆自分の生活や楽しみのための買い物 ◆安全で正確な運行のための人々の働き(仕事) ◆生き物の活動 ◆自然の変化 ◆季節の移り変わりに伴う様々な変化 ◆周囲にある樹木等の自然の様子の変化 ◆家庭での生活の様子の変化 ◆季節や天候の変化 ◆たこあげ、かまくらなどの地域の伝統的な遊び ◆季節にちなんだ行事や祭り ◆夏祭り ◆秋祭り ◆地域の歴史や人物とかかわる行事 ◆地域のイベントの行事 ◆人々がみんなの幸せや地域の発展を願い、地域の結び付きを強めたり楽しみを増やしたりする催しとかかわる行事 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童がかかわりをもてる人々の働き(仕事) ◆地域、家庭の行事(七夕などの祭り、地域の特色ある行事等) ◆児童の生活、遊び(自然、行事とのかかわりのある活動等) ◆児童の生活の考え、こだわり、友達のつながり、生活習慣や生活態度など 				

【注】◎実録枠内の上段は①「小学校学習指導要領 第2章各教科 第5節生活」より、中段は②「小学校指導書 生活編」より、下段は③「小学校生活 指導資料 指導計画の作成と学習指導 指導書」より抜き出したキーワード及びキーセンテンスである。◎これらのキーワード及びキーセンテンスは、極力原文のまま載せるようにした。◎上記①②③の資料間で、抜粋した中に同一の文あるいは同意の文章がある場合は、①・②・③の順に優先して載せる。



特集 生活科全面実施―混乱しない対応策

〈5000字で語る〉

保護者へ伝える	副島 利彦 山本 喜也 福本 洋雄 戸田 正敏 高橋 昌利
「生活科の趣旨説明」	黒崎 宏一 実藤 浩一 油橋 明子 山本由美子 佐藤 道子
「生活科全面実施」とりあえずこれだけはおさえよう	
子どもとともに挑戦する勇気を	小林 毅夫
子どもにも応える資質と技術	鳴野 道弘
柔軟な発想で楽しい授業づくり	津川 裕
「生活科全面実施」への準備：ここがポイント	
積極的に保護者や地域にはたらきかけ	倉澤 達雄
生活科の必然性と効果を伝える	長南 博昭
生活科実施への環境作りを	宮尾 忠治
〈先進校からのメッセージ〉新教科「生活科」と校内体制づくりのポイント	
指導計画づくりと授業による検証に取り組む	木下邦太郎
指導計画・マップ・評価表をつくる	相部 芳徳
実施目前、準備度チェックII―直前編	池内 薫
円滑なスタートへのウォーミングアップ	
地区ウォッチングのノウハウづくり	梶谷 博子
地域行事とどうドッキングさせるか	浦崎 隆徳
学校行事とどうドッキングさせるか	高山 佳己
子どもの生活や遊びとどうドッキングさせるか	川村 よし子
特活とどうドッキングさせるか	竹浪 誠也
教科書活用研究のポイント	片上 宗二
あると便利・生活科の施設・設備と活用術	
多目的室の作り方・使い方	溝江 博
校庭の作り方・使い方	山下 由修

飼育・栽培用地の作り方・使い方	藤井 清
学校園の作り方・使い方	堀田 吉宏
欲しい製作活動の用具	実野 恒久
学習に生きる素材収納スペース	吉浦 公子
役に立つ映像教材の条件	鈴木 勢津子
校内標示の工夫点	岡 恵子
校外指導のマニュアルづくり	八川 亨
「わが校の生活科」夢とパワーを語る／生活科・自校プラン創造の秘訣	
体験を核とした生活科の創造	松浦 幸義
学校・家庭・地域ぐるみの生活科	沼沢 千佳子
教師の願いと子どもたちの夢が結びつく活動	岸本 弘三
ワシポイント鑑賞・生活科実践の基本用語	馬居 政幸
研究会案内 東京学芸大学附属早小学校・幼稚園・元／初等教育研修会(筑波大附小)	
文教ニュース 教職員の生涯生活設計策定を推進／日の丸・君が代問題	
で社会党見解／「活力ある青少年の育成」で答申	
◆連載・若い教師 教育課程編成にトライする・11	藤本 浩行
◆連載・戦後部落差別事件史に学ぶ・11	村越 末男
◆連載・生活科授業事始め・心配アラカルト・11	中野 重人
生活科の評価はどうしたらよいか	中野 重人
◆インタビュールーム	
今だから語る・あの時私はい	高野 桂一 先生 *きき手・江部 満

☆扉のことは「斎藤 勉」

☆表紙写真・(株)モントル／扉イラスト・飯島英明